



# 富岡製糸場総合研究センターだより

No. 29

(2023年7月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

## そうえん 桑園の春

4月、桑園に行くと春の芽吹きを見ることができます。落葉が始まる頃に同じ高さに伐採された<sup>しじょう</sup>枝条は、株からおよそ70cmのところで切り揃えられています。枯れたように見える枝から一斉に<sup>ほうが</sup>萌芽し始める生命力は、冬の間蓄えていた栄養分から生まれます。春の日差しと恵みの雨によって新芽は育ち、新しい枝になります。そこから葉が次々と出て、5月に蚕を育てる<sup>はるご</sup>（春蚕）頃には生い茂ります。

生まれたてのカイコには、枝先の光輝く若葉を目印に、柔らかで栄養分も豊富な葉を与えます。成長段階を見て徐々に硬い葉を与え、カイコは1か月で体重1万倍に成長、やがて食べることを止めて繭を作り始めます。

6月、春蚕のための収穫が終わった桑木は、秋の飼育に備えて伐採作業を行います。株上で切り揃えられた桑は古い切株のコブを<sup>あら</sup>露わにし、数枚の葉のみヒラヒラさせ林立しています。繰り返される収穫と伐採作業によって、桑園の景色はつくり出されます。

場内では、2016（平成28）年に新たに桑苗を植樹し、桑の生態展示を始めました。社宅群前の小路を進むと桑畑があり、かつて日本中にあった景観を懐かしく思い出すことができます。

※桑木の収穫や伐採方法は各地域や時期、蚕の飼育方法で違います。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー  
はこちらから▼

